



「それぞれの行く先へ」

なが い じゆん
永井 潤さん (恵庭市)
撮影場所：菊水歩道橋

〈講評〉-----
光が演出効果を発揮する夜の円形歩道橋の情景です。魚眼レンズの特長を生かし、ダイナミックに表現されています。スローシャッターで車のライトを軌跡として捉えるのはよく使われる表現法ですが、ここではライトによる直線が歩道橋の円形を際立たせており、面白い場面を作り出しています。

優秀賞

「誰がつるのかな、」

なか やま いさみ
中山 勇さん (白石区)
撮影場所：月寒河畔緑地

〈講評〉-----
子どもたちの楽しそうな歓声が聞こえてくる作品です。子どもたちだけでなく、親子の姿が混じっているのもいいですね。川の波紋の広がり画面全体に動きをもたらししています。ベストな瞬間を捉えていますね。



「夕暮れの薫り」

にし いちろう
西 一郎さん (西区)
撮影場所：川下公園

〈講評〉-----
俯瞰気味のハイアングルという視点が新鮮です。個々の人物の姿がうまく配置されていて、構成もバッチリ。シャッターチャンスが的確で、逆光で影絵のように映る人々も魅力的。手前の引き伸ばされた人影が画面の趣きを深め、全体を引き締めています。写し手のセンスが光る作品です。



募集

「白石で見つけた輝き」をテーマに、昨年6月から9月まで区内の風景写真を募集。区内外の45人から109作品の応募がありました。

過去2回の開催に比べて、参加者・応募作品共に増え、内容的にも、白石の魅力をかまざまな角度や切り口で捉えた、素晴らしい作品が多数集まりました。

審査

応募いただいた作品は、10月下旬から11月上旬にかけて白石区役所や白石区民センターで一堂に展示。一次審査として、来場者による投票を併せて実施したところ、214人から計62票の投票があり、その結果、28点が入賞候補作品として選出されました。

その後、最終審査として、11月15日に審査員5人による審査会を開催。厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞3点、特別賞6点の10点が入賞作品として選ばれました。



▲一次審査では全作品を展示



▶審査会の様子

